

令和6年度（所属名）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
① 法令遵守意識の向上	教育公務員としての自覚と使命を持ち、法令遵守及び服務規律の徹底を図る。	令和7年2月21日に「職員啓発資料コンプライアンス意識の醸成」をもとに不祥事防止研修を実施し、公務員としての身分上の義務および服務上の義務について理解をし、職員が当事者意識をもって取り組めるようコンプライアンス意識を醸成した。
② 職場のハラスメントの（パワハラ、セクハラ、マタハラ）の防止	職員一人ひとりが人権に配慮し、職場のハラスメント行為を未然に防止する。	令和7年1月16日に職員啓発資料「職場のハラスメントの防止」をもとに不祥事防止研修を実施し、職場のハラスメント防止に関する意識啓発に努めた。
③ 生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	職員一人ひとりがわいせつ・セクハラ行為の未然防止について当事者意識を持って取り組み、決められたルールを遵守し、児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為を行っている職員はゼロを目標とする。	令和6年5月23日に職員啓発資料「STOPザ・セクハラ／わいせつな行為」をもとに不祥事防止研修を実施し、令和4年4月に施行された「教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律」では児童生徒の同意の有無にかかわらず、児童生徒へのわいせつ行為は”性暴力”に該当することを確認し事故防止を徹底した。
④ 体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権を保障し、体罰、不適切な指導を未然に防止する。	令和6年7月18日に職員啓発資料「体罰、不適切な指導の防止」をもとに不祥事防止研修を実施し、体罰の根絶と不適切な指導の未然防止を図った。
⑤ 入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	入学者選抜、成績処理、調査書、推薦書等の作成及び発行において、点検を適切に実施しミスを根絶する。	令和6年6月20日に職員啓発資料「定期試験・成績処理の事故」をもとに事故防止会議を実施し、定期試験の答案用紙の紛失・滅失の徹底と成績処理に関する事故防止について徹底した。 令和6年12月19日に職員啓発資料「入学者選抜の事故防止」をもとに不祥事防止研修を実施し、事故防止の視点に立った入選業務への取組を周知した。
⑥ 個人情報等の管理（教務手帳の管理、メールアドレス等の取得・管理）、情報セキュリティ対策	個人情報の取扱いには細心の注意を払い、流出や紛失を防止する。	令和6年4月18日に職員啓発資料「児童・生徒の個人情報の取扱い」をもとに事故防止会議を実施し個人情報の持ち出しや生徒とのメールのやり取りなどについてのルールを徹底した。また、適切なSNSの利用について徹底しソーシャルメディアの特性について確認し、公務員としての留意事項を徹底した。 令和6年9月26日に職員啓発資料「個人情報の適切な取扱い、情報セキュリティ」をもとに事故防止会議を実施し個人情報の取扱いに関する基本的なルールを確認し、情報セキュリティの重要性について周知した。

⑦ 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通法規の遵守や交通マナーの向上により、無事故・無違反をめざす。	令和6年11月21日に職員啓発資料「飲酒運転等の根絶」をもとに事故防止会議を実施し飲酒の機会の多くなる年末年始には特に安全運転を心がけるよう職員に呼びかけた。
⑧ 業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）	文書やファイルの共有化を進め、業務の協力体制を確立する。	令和7年3月19日に職員啓発資料「風通しの良い職場づくり」をもとに事故防止会議を実施し業務の協力体制について確認し、風通しの良い職場づくりを目指すことを共有した。
⑨ 財務事務等の適正執行	会計事務処理を適切に厳正に行い、事故を未然に防止する。	令和6年4月より「私費会計事務処理マニュアル」を活用し、適正に会計処理ができるよう情報共有を行い、事故防止に努めた。 令和6年10月10日に職員啓発資料「適切な私費会計の取扱いについて」事故防止会議を開催し私費会計事務の具体的な執行事務について点検した。

○ 令和6年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和7年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

不祥事防止の取組として、職員会議等での不祥事防止に関する研修をはじめ、朝の打合せ等を活用しタイムリーに職員への注意喚起を行った。特に、中学者選抜、成績処理等の事故防止、個人情報管理に取り組んだ。また、職場のハラスメントの防止では、職員相互の良好な関係づくりに取り組み同僚性を高め、「風通しの良い職場」となるよう尽力した。生徒支援では、横浜市大の先生を招いた自殺防止の研修を行うなど職員のン件意識の醸成を図った。生徒に対するわいせつ・セクハラ防止、体罰や不適切な指導の防止に取り組み、生徒一人ひとりの心に寄り添う支援に努めた。日々の業務に加え、令和7年度の学科改編に係る業務があり職員は多忙であわただしい状況であったが、職員一人ひとりが自覚を持ち事故・不祥事なく業務を遂行した。さらに、事故・不祥事防止に組織的に取り組む体制を進めることが課題である。教育公務員としての自覚をしっかりと持ち人権意識を高め生徒支援を行い、業務を的確に遂行し「風通しの良い職場」づくりを行い自己・不祥事防止に尽力したいと考える。